

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：34507

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10907

研究課題名(和文) 地域の一般病院通院中の後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデルの検証と評価

研究課題名(英文) Verification and evaluation of a complex outpatient nursing support model for late-stage elderly cancer patients who are outpatients at local general hospitals

研究代表者

森本 悦子 (Morimoto, Etsuko)

甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授

研究者番号：60305670

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデルは、患者ががん治療を継続しながら加齢に伴う緩やかな心身の機能低下のもと、暮らしが維持できるよう支援するモデルである。これは、コアナースを中心に支援の6指針(予備力の低下とがん治療に伴う心身への影響の査定、外来通院治療継続に関わる看護の実践、必要となる可能性のある他の専門職種との連携・協働等)に基づいた看護支援を、評価ツールと記録用紙を用いながら病院内外の多職種と協働して行うモデルである。このモデルの実行可能性と内容妥当性については外来がん看護に精通するCNSおよびCNにより認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国の高齢化率は世界に先行する状況であり、それに伴い増加し続けている後期高齢がん患者に対して、本研究により検証された地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデルを適用することにより、後期高齢がん患者が地域の一般病院で外来での医療を継続し生活する上で必要な医療従事者および多職種との関わりや、住み慣れた環境維持につながり、その人らしい生活を全うできるエンドオブライフケアの一部にもなりえると考えられる。

研究成果の概要(英文)：A complex outpatient nursing support model for late-stage elderly cancer patients who go to a general hospital in the community allows them to maintain their lives while continuing cancer treatment and under the gradual deterioration of mental and physical functions associated with aging. It is a model that supports will be provided mainly by core nurses based on the 6 guidelines for support (assessment of physical and mental effects associated with decreased reserve capacity and cancer treatment, nursing practices related to continuation of outpatient treatment, cooperation and cooperation with other specialists that may be necessary, etc.). This is a model in which support is provided in collaboration with multiple occupations inside and outside the hospital using evaluation tools and recording forms. The feasibility and content validity of this model were confirmed by CNS and CN familiar with outpatient cancer nursing.

研究分野：がん看護学

キーワード：後期高齢がん患者 外来がん看護 療養支援モデル 専門職連携

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国では世界一位の高齢化率に伴いがん患者の72%を65歳以上の高齢者(2012)が占めており、今後の65歳以上の後期高齢者の増加は確実視されている。高齢者にとって高度ながん治療は、通院での治療管理の継続による延命をもたらすものの、加齢に伴う心身の諸機能の低下は避けられない。即ち高齢がん患者は治療による多様な有害事象への対応をしつつ、複数の併存症のコントロールや栄養状態の低下、認知機能の衰えなど多面的な問題を抱えながら通院治療を継続している状況にある。

そこで研究者はがん医療に特化した都市部のがん診療連携拠点病院ではなく、地方の一般病院での高齢がん患者への外来看護に着目し研究を継続してきた。地方都市の一般病院で外来化学療法を受ける高齢がん患者に関する研究(平成20~22年度基盤研究C)では、高齢がん患者、とりわけ75歳以上の後期高齢者が、成人患者と比べ加齢に伴う体力や諸機能の低下が日常生活上に影響を及ぼし、生きがいや希望を見いだすににくい状況をもたらしていることを、外来通院で内服抗がん剤治療を受ける患者に関する研究(平成24~27年度基盤研究C)では、がん患者の高齢化が本来可能なその人らしい暮らしを支えるはずの治療継続や、支援獲得を妨げている現状を明らかにした。以上から、後期高齢者が通院や治療を継続しながらも地域での患者らしい日常生活を維持するための在宅介護を視野に入れた、一般病院における複合的な外来看護支援モデル(以下、外来看護支援モデル)を開発した。(平成28~30年度基盤研究C)

しかし、外来看護支援モデルを実際に運用するには、地域で暮らす後期高齢がん患者の個別性や、外来で働く看護師の人員配置・業務の煩雑さ等、考慮すべき課題が残されている。そこで開発した支援モデルの実質的な有用性を高めるために、複数施設の臨床への適用により、モデルの検証・評価という実証的検証を通して洗練を図ることが必要であると考えた。

2. 研究の目的

「地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデル」を複数施設の臨床に適用し、支援モデルの検証・評価により、支援モデルの洗練を図ることとした。

* 「地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデル」の骨子支援目標

地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者が、治療を継続しながら加齢に伴う緩やかな心身の機能低下のもと暮らしを維持することができる

3. 研究の方法

本研究は、研究目的を達成するために以下の3段階を3年間で実施する計画とした。

- 1) 1段階: 外来看護支援モデルの妥当性・実現性を高める専門家会議の開催とモデルの修正
- 2) 2段階: 外来看護支援モデルの適用に向けた準備および適用と検証、評価
- 3) 3段階: 外来看護支援モデルの洗練

しかしCovid-19の感染拡大に伴い、2段階からの研究遂行が困難であると判断し、研究計画を一部変更のうえ、研究期間を4年間に延長し実施することとなった。

1) 1段階: 外来看護支援モデルの妥当性・実現性を高める専門家会議の開催とモデルの修正

地域の一般病院における後期高齢がん患者への看護に精通している有識者(がん看護、老年看護、在宅看護領域の専門看護師/認定看護師ら)計10名程度からなる専門家会議を2カ所(関東および四国)で行い、臨床における外来看護支援モデル適用の妥当性、実現性を検討することとした。

有識者は研究者らのネットワークを活用し機縁法により集め、全員が集合しやすい関東と四国の会場及び日程をそれぞれ調整し、2~3時間程度の会議を各1回開催した。会議の実施効率化のため、対象者には事前に外来看護支援モデルに関する資料を送付した。なお本研究は研究代表者の所属する機関の倫理審査委員会の承認を得て行った。

2) 2段階: 外来看護支援モデルの適用に向けた準備および適用と検証、評価

当初の計画では、2つの専門家会議から得た外来看護支援モデルに対する妥当性・実現性に関する意見を踏まえ、結果を反映させた外来看護支援モデルの修正を行い、外来看護支援モデル(修正版)を臨床現場に適用する予定であった。しかし、Covid-19の拡大に伴い、臨床施設および施設の研究協力者に対して、研究協力を依頼する状況ではなくなったため、研究の進捗がいったん停止となった。そのため臨床現場への適用を今年度は断念し、外来看護支援モデルを改めて見直し、モデルに介入する専門職種について、また各々の役割の明確化や訪問看護師および地域包括支援センターとの連携について、研究者間で検討・再考するにとどまった。

3) 3段階：外来看護支援モデル(修正版)の洗練化

研究目的達成のための外来看護支援モデルの適用と検証を臨床施設で実施することが不可能となり、研究計画を変更した。「地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデル(修正版)」を、後期高齢がん患者の看護支援に精通しているがん看護専門看護師およびがん関連の認定看護師に事前に送付し、その内容について以下の調査内容に基づきオンラインを用いたインタビュー調査により実施することとした。対象者は研究代表者のネットワークを活用のうえ依頼し、研究参加の同意を得た。

調査内容は、支援モデルの目的・概要についての全体的な内容の理解について、自施設での支援モデル運用に際しての課題：他部門や他の専門職との連携、等とし、それぞれにおいて改善すべきところ、意見等を収集し、質的に分析した。なお本研究は研究代表者の所属する機関の倫理審査委員会の承認を得て行った。

4. 研究成果

1) 1段階：外来看護支援モデルの妥当性・実現性を高める専門家会議の開催(関東および東海地区)とモデルの修正

得られたインタビューデータを質的に分析した結果、外来看護支援モデル(案)の対象としている後期高齢がん患者の特性から、「私の人生」を聴くことの重要性やその実施方法について、支援の基点となるコアパーソンの能力や各々の果たす役割の明確化について等の意見が聞かれた。また支援に関わる専門職の構成については、支援が入る初期からの訪問看護師や地域包括センターとの連携の必要性、ケアマネージャーの追加などが示唆された。さらに後期高齢がん患者への支援介入時期を3期に分けていることから、これらのつなぎ部分の支援についても意見が得られた。後期高齢がん患者の療養生活上の変化などを査定する役割として導入しているいくつかの尺度については、地域包括センターやケアマネージャーなど医療系以外の福祉分野の専門家にも理解できるとして、支援において使用することは有効ではないかとの意見が得られた。

2) 2段階：外来看護支援モデルの適用に向けた準備および適用と検証、評価

Covid-19 感染拡大の影響により当初の計画であった、支援モデルの臨床での検証と評価を断念し、支援モデル(案)を改めて見直しモデルに介入する専門職種について、また各々の役割の明確化や訪問看護師および地域包括支援センターとの連携について、再考することとなった。

以上の専門家会議の意見の集約、支援モデルの内容について修正を行い、「地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデル(修正版)」とした。

3) 3段階：外来看護支援モデル(修正版)の洗練化

研究対象へのインタビューデータを逐語録におこし質的に分析を行い、外来看護支援モデル(修正版)の洗練化を図った。対象者は、中国・四国・九州地域の病院に勤務する5名のがん看護専門看護師もしくはがん関連の認定看護師で、うち4名は地域がん診療拠点病院、1名は後方支援を行っている地域の病院に勤務しており、全員看護師歴は20年以上であった。得られたインタビューデータからの分析結果について、研究者間で共有し検討した結果、以下の方向性で修正を行い、外来看護支援モデルの完成版とすることを決定した。

モデルについては、

- ・時期の区分：支援の区切りが必ずしも時期によって明確ではないため、支援の枠線を点線とし流動性を示すこととする。

- ・指針：7つの指針より6つの指針に集約することとなった。

以上の研究成果により、「地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデル」を完成させた。後期高齢者は心身共に脆弱なフレイルと呼ばれる状態に陥りやすく、併存疾患の悪化や認知機能の低下は避けられない。しかしこの支援モデルの適用により、長期に及ぶ外来看護師や地域で生活する上で必要な専門職者等の関わりから生じる信頼感や暮らしの延長にある環境が維持できることは、フレイルに陥る迄の期間を延長し、最終的にはその人らしい生を全うできる高齢者のエンドオブライフケアへの看護からの提言にもつながると考える。今後は地域の一般病院の外来において後期高齢がん患者への看護支援に活用できるように、学会誌等での公表を行う。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石橋みゆき, 森本悦子, 小山裕子	4. 巻 25
2. 論文標題 地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者と家族の療養生活上の困難と取組 複合的な外来看護支援モデルの構築に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本老年看護会誌	6. 最初と最後の頁 113-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石橋 みゆき (Ishibashi Miyuki) (40375853)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	
研究分担者	宗澤 紀子 (Munezawa Noriko) (40637055)	学校法人文京学院 文京学院大学・保健医療技術学部・准教授 (32413)	
研究分担者	小原 弘子 (Kohara Hiroko) (20584337)	高知県立大学・看護学部・講師 (26401)	
研究分担者	小山 裕子 (Yuko Koyama) (50737509)	学校法人文京学院 文京学院大学・保健医療技術学部・非常勤講師 (32413)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------